



答 辞

16 期土日中医薬膳師コース 北林 洋子

本日、私達 16 期生一同は、晴れてこの本草薬膳学院の卒業を迎えることができました。その晴れの日、このような素晴らしい卒業式を挙げて頂き、また、先生方から心温まる式辞のお言葉を賜りましたこと、深く感謝し御礼申し上げます。

今、この場に立ち、一年間を振り返りますと、改めて一年という時の短さを実感せずにはられません。しかし、その一方で、毎回の授業が初めて聞き取る言葉や口にする食薬の連続で、大変濃厚な体験をさせていただいた一年でもありました。

私は、かつて薬膳を習得したいと何年か学んだ経験がありました。残念ながら一向に人のために役立てるには至りませんでした。劉先生が授業の初めにいつも必ず言われる言葉があります。「今日は皆さんお互いの顔色や体調は確認しあいましたか？私の顔や様子はどうか？」初めはそれを、単に授業の復習と捉えていました。しかし、最後の卒業試験の日に「人の体・病気はいつも教科書通りとは限りません」と先生がおっしゃった時、ふと授業の初めに何度も先生が言われていたあの言葉とつながり、ハッとしました。教科書通りとは限らないからこそ、たくさんの経験を経て基本も応用も例外も見極められる眼を養わなくてはいけない。ただ表面的に眺めているだけでは『望診』とは言えず望み診る事。薬膳は五感も六感も、自分が持っているものは全て使って向き合う学問だと教えて頂いた様な気がしました。そして、長い間私が薬膳を活かしきれなかった理由はまさに、本当の意味で診る事、この部分の欠如だったと、今ようやくわかりスタートラインまで導いて頂いた気がしています。

私達 16 期生は薬膳に対しての志気が本当に高い生徒の集まりだったと思います。授業で習った生薬を早速皆で買いに出かけ大きな袋を分け合ったり、授業後に薬膳レストランに出かけて様々なプロの料理に触れつつ、授業の感想や意見の交換をしたり、多くの素晴らしい時間、横のつながりも持つことができました。卒業後も、ずっと共に学んだ仲間として変わらずに交流を続けていきたいね、と既に声が上がっています。

そして、私達がこんなにも薬膳の勉強に集中させて頂いたのは、やはり講師の先生方の惜しみないご尽力のお陰であることは言うまでもありません。平尾先生に授業内容の質問をメールで送った際には、本当にお忙しい中、すぐに先生からの返信がされた、その速さと内容的的確さに驚き、感動し、安里先生は私達が授業後に話し合いをしていると、いつも「差入れ」と言われてガムをそっと差出し、自席で私達皆が帰るまで、まるで

去る十月八日(祝)、虎ノ門の香港料理店「源」にて、本年度本学院秋期卒業式及び中医薬膳師の資格授与式が行われました。出席者は卒業生・講師併せて十九名。式の後に祝賀会。特製の薬膳料理を頂きつつ談笑。終始和やかな雰囲気でした。卒業生達の今後の更なるご発展・ご活躍を期待しております。



「卒業おめでとう」です 2012年度秋期卒業式・ 中医薬膳師資格認定式



母のように気遣い見届けてくださいました。こうして、いつでも私達を受け入れるために扉を開いて下さっている先生方に、感謝の気持ちでいっぱいです。

また、諸事務を取り仕切って下さいました事務スタッフの皆様には、私達が一度に大量に投げかける質問や手続きなどを、いつも見えない所で一つ一つ丁寧に対応して頂き、そのお陰で学院での勉強を円滑に送らせて頂くことができました。

最後になりますが、私だけでなく、ここにいる全ての卒業生がそれぞれの感謝の気持ちや思い出で今あふれていると思います。卒業生全員の気持ちを私一人が代弁する事はとてもおこがましいことですが代表してお礼を述べさせて頂きたいと思います。

先生方、事務スタッフの皆様、私達を支えて下さった全ての皆様、この一年、薬膳の世界に飛込んだ私達を温かく育て、見守り、支えて下さって本当にありがとうございました。この学院で学んだ数多くの薬膳の知識を礎に、私達は各々の大切な一部として活かし、これからも前進していきたいと思っています。

以上、卒業生を代表してお礼の言葉とさせていただきます。

